

「鉄のふしぎ博物館」

来て！見て！触れて！
ふしぎ体感！！

神 戸 新 聞 2009年(平成21年)7月15日 水曜日

姫路の地場産業・鎖の製造会社「衣川製鎖工業」(姫路市飾磨区阿成渡場)が19日、社内に「鉄のふしぎ博物館」を開設する。これまでもミニ博物館として夏休みに社内の一部

を開放してきたが、場所を移して拡張。さまざまな種類の石が磁石に引っつくことや、宇宙から降ってきた隕鉄の重さなど、身の回りの鉄について学べる。(坂本 勝)



飾磨の衣川製鎖工業

姫路

2代目社長
の衣川良介さん(63)は大学卒業後、家の鎖作りについて約40年、携わった。鎖製品について一から学び、注文や質問

開設準備が進む「鉄のふしぎ博物館」＝姫路市飾磨区阿成渡場

「鉄のふしぎ博物館」
19日社内に常設博物館開設

を受けらるうち、身近な鉄について、取引業者でもよく知らないことに気付いた。自分で調べ、鎖についての入門書の冊子を作る一方、2007、08年の夏休みには社内の一 corner をミニ博物館として開放。また、地元の系引小学校に出向き、天然の磁石や砂鉄などについての授業を行ったこともある。新しく開設する「鉄のふしぎ博物館」は、社内の会議室(約50平方メートル)を利用し、約200点の資料を常設展示する。永久磁石の製造販売会社、姫路電子(姫路市白浜町)から提供された磁石のほか、アフリカのナミビアで見つかったギボン隕鉄や数十億年前の化石スト

磁石や隕鉄、多様な製品も

ロマトライトなど貴重な石を並べる。また、コンパスの基になった中国の地盤儀、姫路の明珍火箸、昔の鍵やくぎもある。砂鉄を拡大して観察できるマイクロスコープや磁石の力で浮き上がって回る地球儀など興味深い展示も多い。衣川さんは「不思議な鉄鉱石の生い立ちや鉄の変わった性質を知ってほしい」と話している。開館は午前9時〜午後6時(19日は午前10時から)。見学は要予約で定員15人。強力な磁石があるので、心臓ペースメーカー装着者は入場不可。無料。ボランティアのガイドを募集している。同社 079・234・1515